KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立果樹授粉機
DMP3101

（社）日本陸用内燃機関協会
小形汎用エンジン
排出ガス自主規制適合証

⚠ 警 告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

ご挨拶

・共立果樹授粉機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・この授粉機は、軽量・小型に製造された２サイクルエンジン付授粉機です。
・この授粉機は果樹への花粉散布に使用するものであり、目的以外に使用しないでください。
・機械を改造してはいけません。
・整備不良の機械は、危険ですので使用しないでください。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
説明をわかりやすくするため、使用している図は現品と異なる場合があります。
・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。
（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。
・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行った後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・本製品は一部部品の組立作業が必要となります。
・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
各部の名称 4
　各部の名称とその機能 5
組立 6
　噴管の組立 6
正しい作業のために 7
　作業者の体調 7
　保護具 7
　花粉 8
操作方法 9
　燃料の取扱い 9
　エンジンの始動と停止 １０
　散布作業 １３
　花粉の作り方（りんごの例） １４
点検・整備 １６
　整備の目安 １６
　点検要領 １６
故障診断と対策 ２０
保管 ２１
　長期保管（６０日間以上） ２１
仕様 ２２

警告表示マークの意味

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重症を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重症を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表します。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です。

- この取扱説明書で解説されている機械には、下表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。
  ご使用前にラベルの意味を理解してください。
- 万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。

警告表示ラベル

⚠ 警　告

排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

⚠ 注　意

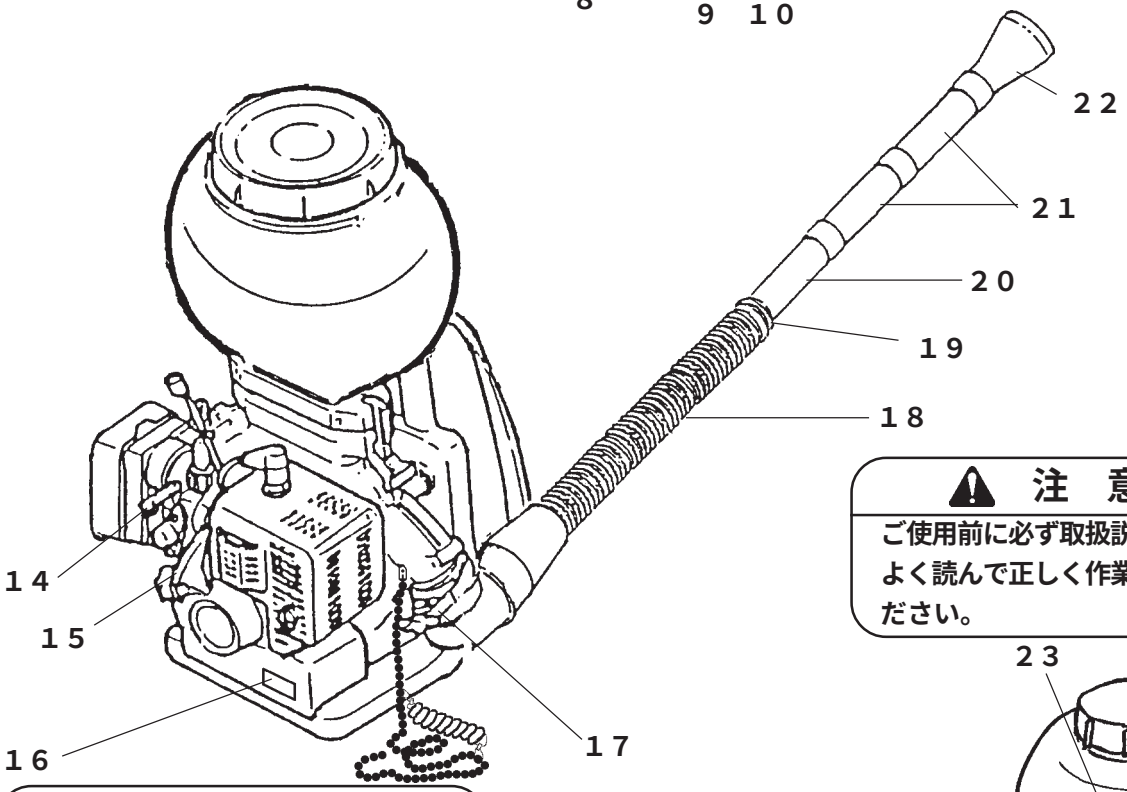
ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

⚠ 注　意

●作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。

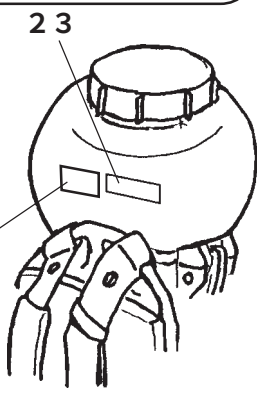
各 部 の 名 称





⚠ 注 意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。



⚠ 警 告

排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

⚠ 注 意

●作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。

各部の名称とその機能

１．取扱説明書	―	機械をお求めになったとき必ず付いています。 機械を使用する前に必ず読んでください。 また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。
２．花粉タンクキャップ	―	花粉タンクを密閉するふたです。
３．花粉タンク	―	花粉を入れる容器です。
４．背負バンド	―	本機を背負う際に使用します。
５．背当て	―	作業者が本機を背中で受け保持するものです。
６．スロットルレバー	―	エンジン回転数を調節するためのレバーです。
７．調量レバー	―	花粉の吐出量を調節します。
８．エアクリーナ	―	エンジンに供給される空気をきれいにします。
９．燃料タンクキャップ	―	燃料タンクを密閉するふたです。
１０．燃料タンク	―	燃料を入れる容器です。
１１．プライマリポンプ	―	始動前にこのポンプを押して､燃料タンクからキャブレタに燃料を送り込みます。
１２．マフラカバー	―	消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。
１３．スパークプラグ	―	エンジンの頭部に組付けられ、シリンダ内の混合気に点火するものです。
１４．チョークレバー	―	始動時に燃料と空気の混合比を濃くするレバーです。
１５．スタータグリップ	―	エンジンを始動するとき使用します。
１６．警告ラベル	―	エンジンの排気ガスは有毒です｡屋内など換気の悪い場所で使用しないでください。
１７．手締めバンド	―	送風機出口に組付けた、たわみ噴管を締付けるバンドです。
１８．たわみ噴管	―	噴管出口の方向を変えるフレキシブルな噴管です。
１９．噴管バンド	―	たわみ噴管と直噴管を接続し、締付けるバンドです。
２０．直噴管	―	噴管を接続し長くします。
２１．接続噴管	―	噴管を接続し長くします。
２２．平扇噴頭	―	花粉を散布する噴頭です。
２３．注意ラベル	―	ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
２４．注意ラベル	―	作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。

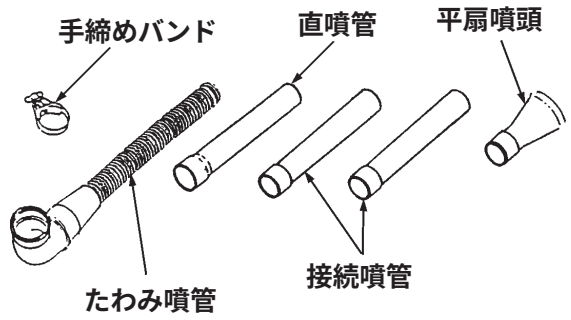
組　　立

・機械を改造してはいけません。
・整備不良の機械は、危険ですので使用しないでください。

重　要

花粉タンクと調量シャッタは組付けられた状態で出荷されます。
清掃などのために取外したあとの組付けについては点検･整備の項（１９ページ）をごらんください。

図１

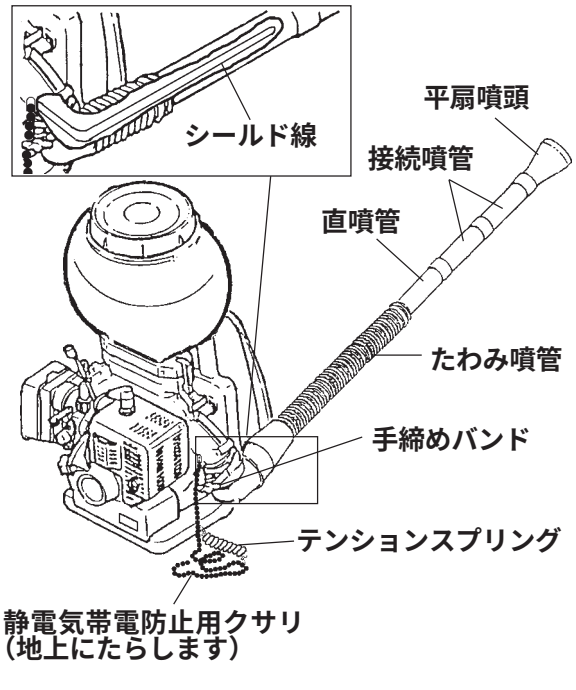


噴管の組立

直噴管をたわみ噴管にかたく締まるまでねじ込んでください。接続噴管を直噴管に差し込み、その先に平扇噴頭を散布に適した向きに合わせて差し込みます。送風機出口にたわみ噴管元部を差し込み（このときシールド線が噴管の内側を通るように組付けます：図２参照）、手締めバンドで締めてください。

図２

シールド線が噴管の内側を通るように組付けます



静電気帯電防止用クサリ

本機には静電気帯電防止用クサリが組付いています。静電気帯電防止用クサリは、作業中に踏みつけてもクサリが切れないようにテンションスプリングが付いていますので、そのまま地上にたらしてください。機械を背負うときにクサリが背負架や背負バンドなどに絡まないよう注意してください。

正しい作業のために

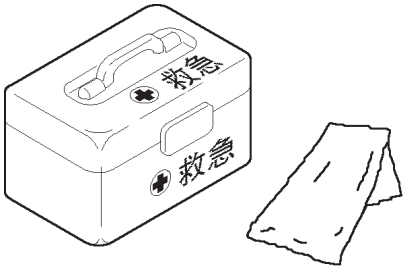
⚠ 警　告

- 機械が不適切に使われたり、あるいは使用上の注意を守らないと、重大事故を起こす可能性があります。
- 機械を運転するときは、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。

図1



図2



救急箱　　タオル、てぬぐい

図3

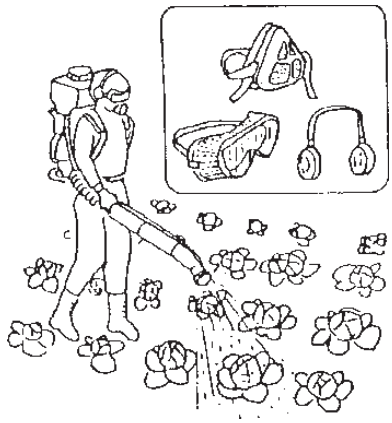


図4



⚠ 注　意

- 機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。
  本機や花粉に関する知識を持たない人や子供などには使わせないでください。
- 夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないでください。

作業者の体調

- 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、作業中に疲れた場合は作業を中断し休憩してください。気分の悪さや疲れが続くようでしたら、医師に相談してください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
- 妊娠している人、運転が未熟な人、負傷中の人は機械を操作しないでください。

ケガへの備え

- 万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
  出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
- 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

保護具

身体を保護する衣服

足や体がむき出しにならない、耐薬品性のある作業衣を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし、裾じまりや袖じまりをよくしてください。フリルや飾りヒモは機械などに絡まる原因になります。ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないでください。髪の毛は肩より上でまとめてください。

目の保護

目の保護に保護めがね（ゴーグル）を着用してください。日常、めがねを使用している人は、そのめがねの上から保護めがね（ゴーグル）などの目を保護するものを付けてください。

頭部の保護

作業帽または防護頭巾を使用し、頭部や首を保護してください。

耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。耳覆い（イヤーマフ）や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

手の保護

ゴム手袋またはビニール手袋を着用してください。

脚全体の保護

滑りにくい作業用長靴を履いてください。（作業時に静電気が発生しやすいため、静電防止用長靴をおすすめします）

つま先のあいた靴を履いたり、裸足で機械を使用してはいけません。

身体の保護のためのその他の事項

- 保護用の衣類は汗をかき、疲労を増します。気温が高いときは作業を中止し気温が下がってから作業をしてください。
- 散布作業をするときはマスクを着用し、花粉を吸い込まないようにしてください。
- 万一の事故に備え、電話機のそばの目に付きやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
  特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
- 単独で作業する場合、どこで作業を行っているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。
- 作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

図1

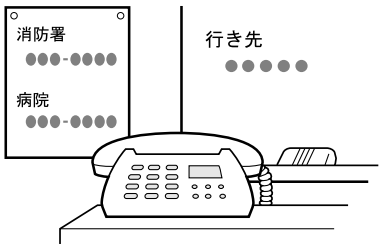
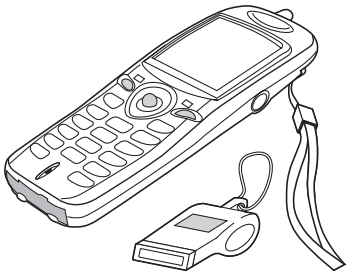


図2



⚠ 注　意

- 近年、果樹花粉でもアレルギー症状（花粉症）の発症例が報告されています。
  散布時は、保護めがね（ゴーグル）、保護マスクを着用し、花粉が目・鼻・のどに入らないよう注意してください。
- 作業後は手足、顔などをよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- 作業中あるいは作業後に異常を感じたときは、医師の手当てを受け指導に従ってください。

花粉

- 花粉の取扱いは、各都道府県の指導による取扱方法に従ってください。
- 本機や花粉に関する知識を持たない人や子供などには取扱わせないでください。
- 花粉がこぼれたときはすぐに拭き取ってください。
  また、花粉タンクキャップはしっかりと締め、運転時に花粉が漏れないようにしてください。

重　要

常に、新しく乾燥した花粉を使用してください。

操　作　方　法

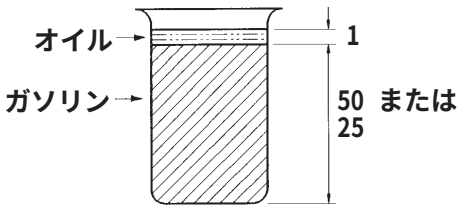
⚠ 警　告

- 引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に充分注意してください。
  燃料の補給中にタバコを吸ったり、火花を出したりしないでください。
- エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず身体から機械を離し、身体の安全を確保してください。

⚠ 注　意

燃料を補給する際は燃料補給ポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼれないように注意して補給してください。
傾斜地では補給しないでください。
機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

図1



ガソリン	2サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	50：1	25：1
4	80	160
8	160	320
20	400	800

図2

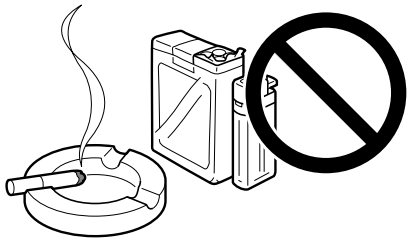
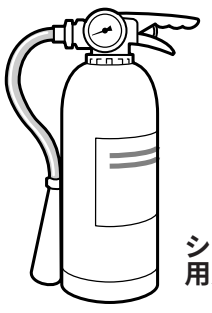


図3



シャベルまたは消火器を用意する

燃料の取扱い

重要

- 混合燃料の長期保管は劣化しやすいので、燃料は使用する分量だけ混合してください。
  燃料の混合は、機械の燃料タンクで行なわないでください。
- 燃料タンク、燃料タンクキャップ、ブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。
- ＪＡＳＯ性能分類：２サイクルエンジンオイルの潤滑性能順にＦＣ、ＦＢ、ＦＡの３種類に分類し表示します。
  共立純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」で、混合比「５０：１」で使用します。

● 本機の燃料にはレギュラーガソリンと、２サイクルエンジンオイルを混合した燃料を使用してください。正しくない燃料はエンジン機能不良の原因となります。

● 燃料の混合比は、２サイクルエンジンオイルの種類により下記の通り使用してください。

・共立純正２サイクル専用オイル　;[５０：１]
　ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ

・２サイクルエンジンオイル　;[２５：１]
　ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ、ＦＡ

● ガソリンとオイルの混合はガソリン用の容器を使用し、よく混合してください。

● 自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

図１

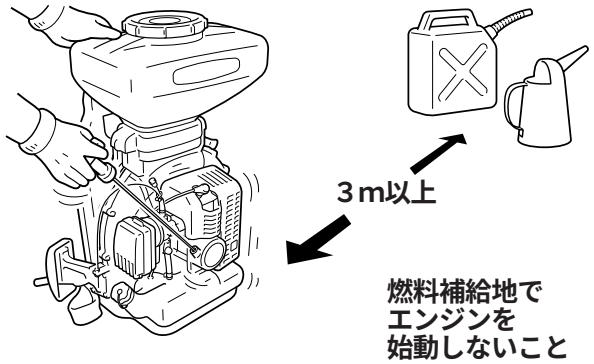
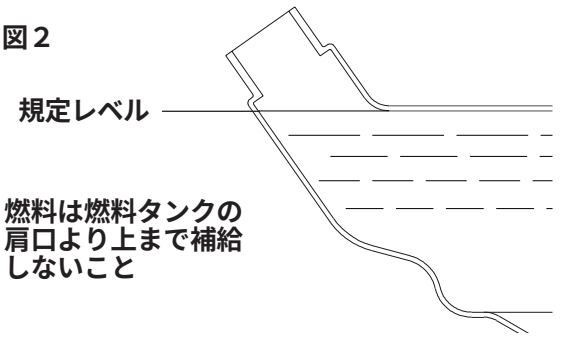


図２



⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

図３

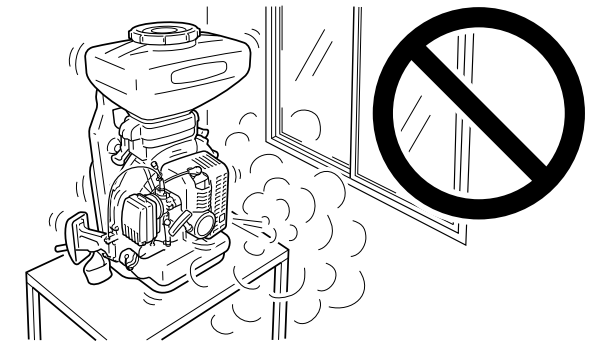
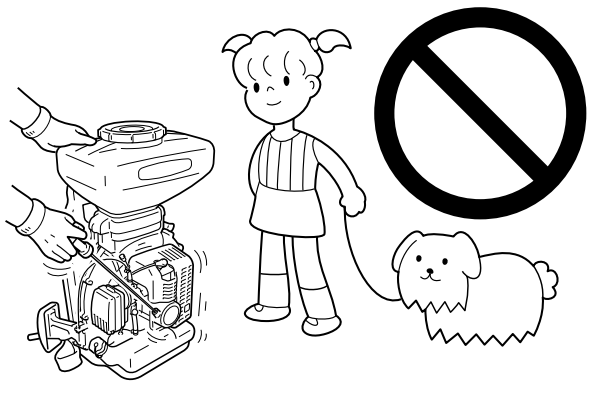


図４



- **燃料タンク内には、外気との間に圧力差が生じています。燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。**
- **燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行なってください。**

  屋内では燃料を補給しないでください。
- **エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。**
- **燃料は規定レベル（燃料タンク肩口）を超えて補給しないでください。（図２参照）規定レベルを超えると使用時にキャブレタから燃料が漏れることがあり、火災の原因になります。**
- **燃料を補給した後は、燃料タンクキャップを確実に締めてください。**
- **補給用タンクは火気のない日陰に保管してください。**
- **エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。**
- **燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。**

エンジンの始動と停止

⚠ 注　意

- **エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。**
- **燃料が漏れていないか確認してください。燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。**
- **機械を始動する前に、花粉タンクキャップをしっかり締めてください。**
- **機械の周囲は充分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。**
- **機械は地面にしっかりと押え、始動してください。**
- **エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、スロットルレバーの点検をしてください。**

重　要

- **始動時には調量レバーは必ず閉じておきます。**
- **噴管なしで運転されますと正規の回転が上がらないだけでなく、エンジン不調の原因となります。**
- **スタータグリップを引くときは、まず軽く引出し更に素早く引いてください。引き紐の２／３以上は引出さないでください。**
- **スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。**

図１

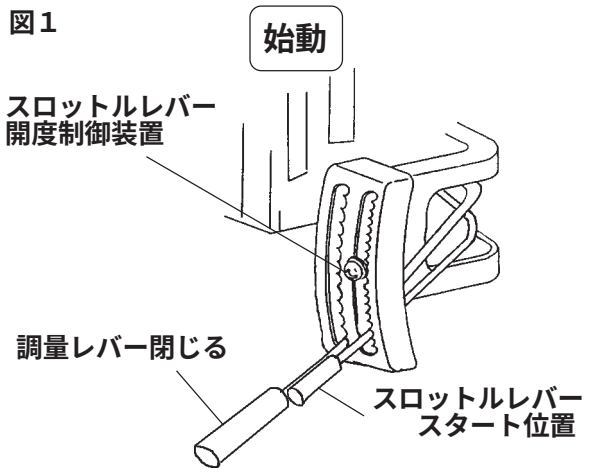


図２

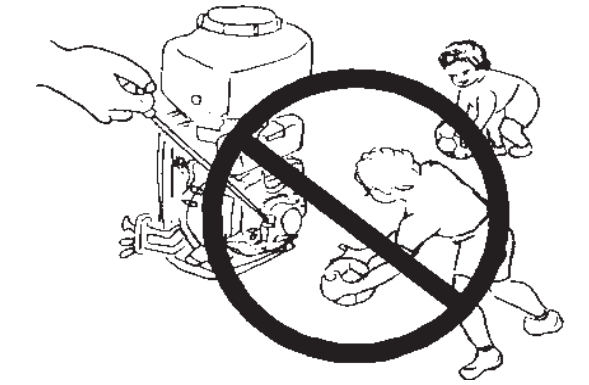


図３



図４



重　要

スロットルレバー開度制御装置（図１参照）は動かさないでください。
スロットルレバーの開度を、正しく作業するために規制してます。

- **エンジンを始動するときは、機械を地面において、調量レバーを閉じ、スロットルレバーをスタート位置（スロットル開度目盛の２または３）にしてください。燃料パイプが折れ曲がっているときは、エンジンを始動しないでください。**
- **この機械を背負ったままでエンジンを始動しないでください。**
- **この機械を使用する場所をチェックしてください。障害物は作業する場所から取除いてください。**
- **足場の悪い所ではこの機械を使わないでください。**
- **機械の始動時、また使用時は、その場所に他の人やペットを近づかせないでください。**
- **噴管を人や動物へ向けないでください。**
- **噴管は、いつもしっかり握ってください。**
- **この機械を扱う際、高温による火傷を防止するため、手や体をマフラやシリンダなどの高温部に触れないようにしてください。**
- **全装備での機械操作時は特にバランスを失わないように注意してください。**
- **機械を背負ったとき背負バンドと操作レバーがもつれないようにしてください。**
- **この機械は、真直ぐに立てた状態で使用するよう設計されており、使用時および運搬時に横にしたり、極端に傾けたりして、燃料や花粉が漏れないようにしてください。**
- **夜遅くまたは朝早く近隣の人に騒音で迷惑をかけるときは、この機械を使うことを避けてください。**
- **マフラが、正常に機能していることを確認してください。機械が適切に作動するように、エアクリーナの空気吸入部分とエアフィルタもチェックしてください。**

図１

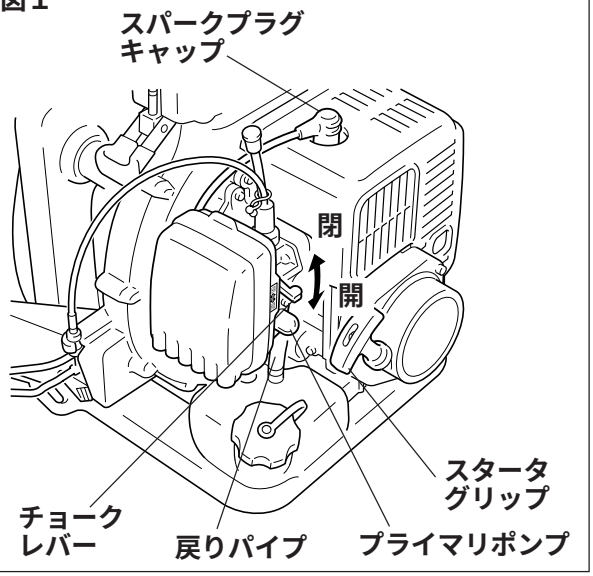


図２

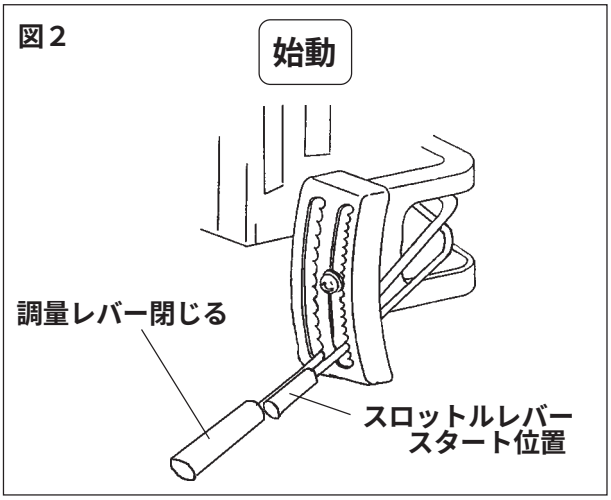
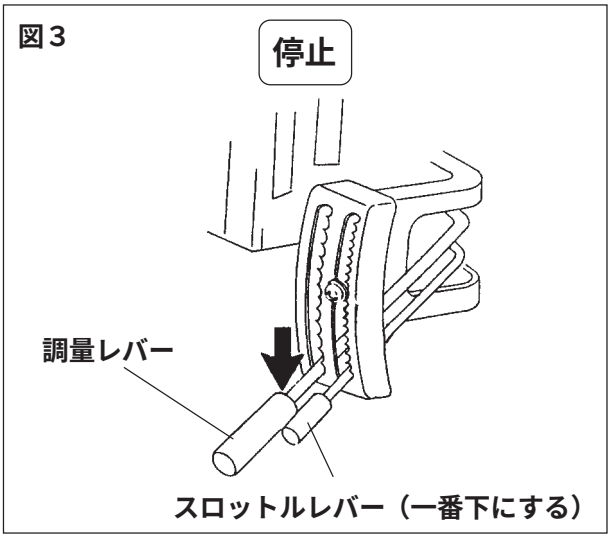


図３



始　動

- スロットルレバーをスロットル開度目盛の２または３にします。(図２参照)
- チョークレバーを“閉”にします。（図１参照）
- プライマリポンプを押す・離すの操作をくり返して、戻りパイプから燃料が下がってくるのを確認してください。
- スタータグリップを軽く２～３回引いて燃料を吸い込ませてから強く引くと始動します。
- 始動後はチョークレバーを徐々に戻し（チョークを“開”にする）そのまま低速の状態にして暖機運転を行います。
- エンジンが暖まっているときはスロットルレバーをスロットル開度目盛の１または２にしてチョークは“開”で始動します。このときプライマリポンプを押す必要はありません。

運　転

暖機運転後、徐々にスロットルレバーを上げ風量を調節し、作業に入ってください。

停　止

まず調量レバーを閉じて、花粉の吐出が完全に止まっていることを確かめてから、スロットルレバーを低速位置（スロットル開度目盛１または２）まで下げ、しばらく低速運転をしてから一番下にしてください。（図３参照）
エンジンが停止します。

１	調量レバー	閉
	↓	
２	スロットルレバー	低速位置１～２
	↓	
３	スロットルレバー	最下位

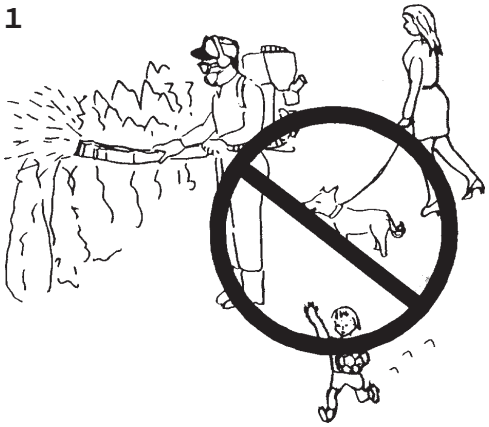
エンジン停止後、キャブレタ内の燃料は自動的に排出されます。
長期に機械を使用しないときは、必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。（図１参照）

散布作業

傷害事故を防止するため

・作業する場所の周りを確認し、花粉が人や動物にふりかからないように散布してください。

図１



重　要

常に、新しく乾燥した花粉を使用してください。

花粉の補給

花粉を花粉タンクに入れたまま長時間放置すると、花粉の種類によっては堅くしまり、出が悪くなることがありますから、散布直前に補給することが大切です。

・花粉を補給するときは、エンジンを停止して本機を地面に降ろしてください。
・花粉を補給する前に、必ず調量レバーを閉じてください。

調量レバー

・調量レバーはエンジンを使用回転に上げてから徐々に開けてください。
・エンジンを停止または、低速にするときは必ず調量レバーを閉じてからスロットルレバーを下げてください。
・調量レバーは下から上へ動かして目的の目盛位置で使用してください。上から下へ動かした場合は、正確な吐出量が得られないことがあります。

散布方法

・平扇噴頭を下に向け、噴管を上から下に振り下ろし、壁を塗る要領で散布してください。
・１本の樹でも２回に分けての散布が理想です。陽当りの良い所の中心花が先に咲き、陰の部分の中心花とは２～３日のズレがあります。
・中心花が８分～満開のときが散布の最適な時期です。

⚠　注　意

散布作業をするときは、保護めがね（ゴーグル）、保護マスクを着用してください。

花粉の作り方（りんごの例）

授粉和合性（リンゴの例）

めしべ ＼ 花粉	デリシャス系	ふじ	陸奥	レッドゴールド	つがる	王林	国光	紅玉	印度	ゴールデン	祝	世界一	ジョナゴールド	北の幸	ガラ	金星	千秋	夏緑	北斗
デリシャス系	×	◎	×	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	×	○	◎	◎	◎	○	×
ふじ	◎	×	×	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎	×	○	○	◎	◎	○	×
陸奥	◎	○	×	○	◎	○	◎	○	○	×	◎	○	×	◎	○	◎	◎	○	×
レッドゴールド	◎	◎	×	×	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	×	◎	◎	×	◎	◎	×
つがる	◎	○	×	◎	×	○	○	◎	○	◎	◎	◎	×	◎	◎	○	○	◎	×
王林	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	◎	◎	○	◎	◎	×
国光	◎	○	×	◎	◎	○	×	◎	◎	◎	○	◎	×	◎	◎	◎	○	◎	×
紅玉	◎	◎	×	◎	◎	◎	○	×	○	○	○	◎	×	○	◎	◎	◎	◎	×
印度	◎	○	×	○	○	○	○	○	×	◎	○	◎	×	△	◎	◎	◎	◎	—
ゴールデン	◎	○	×	○	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	×
祝	◎	◎	×	○	◎	◎	◎	○	○	○	×	◎	×	◎	◎	○	△	◎	—
世界一	○	◎	×	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	◎	◎	◎	◎	×	×
ジョナゴールド	◎	○	×	○	○	◎	◎	◎	◎	×	◎	△	×	◎	◎	△	○	×	×
北の幸	◎	○	×	◎	◎	◎	◎	◎	×	○	◎	○	×	×	◎	◎	○	◎	×
ガラ	○	○	×	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	×	○	×	◎	○	○	×
金星	◎	◎	×	×	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	×	◎	◎	×	◎	◎	×
千秋	○	◎	×	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	○	×	◎	×
夏緑	○	◎	×	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	×	×	○	◎	◎	◎	×	—
北斗	○	×	×	◎	○	—	○	×	◎	◎	◎	◎	×	○	○	○	◎	◎	×

（注）1：◎は76％以上の結実率　△は26～50％の結実率　—は追試験中
　　○は51～75％の結実率　×は25％以下の結実率
　　2：◎印と○印は授粉に適する。

- 花の採取は陸奥、ジョナゴールド、北斗以外の品種はどれでも良く、風船状から開花直前のものでできるだけ揃えると均一な良い花粉ができます。
- 葯落としは花を採取したらできるだけ早く金網で落とします。葯とり器、小形脱穀機を使用すると能率的です。
- 開葯の場合の温度は２０～２５℃、湿度２０～８０％にします。葯が蒸れないよう厚く重ねないようにします。
- 葯の中の花粉を充分に採集するため、ふるいに掛けるのは１度だけでなく、ふるいを通った花粉と石松子を再びふるいに通す作業を３～４回繰り返します。（ふるいは８０メッシュ使用）

花粉のうすめ方

花粉の希釈倍率（容積比）

花粉発芽率（%）	葯殻付花粉	石松子
８１以上	1	4
８０～６１	1	3
６０～４１	1	2
４０～３１	1	1
３０～２１	1	0
２０以下	花粉の活力が低いため使用しません	

＊ 雨天の場合は花粉１に対し石松子１～２とする。

散布量

- 吐出量を５ｇ／ｍｉｎとした場合、調量レバーの開度は5～6で散布し、１０ｇ／ｍｉｎとした場合は調量レバーの開度は７～８で散布してください。

花粉の保存

- 花粉をすぐ授粉に使わない場合は、密閉容器に乾燥剤と一緒に入れて冷暗所に保存してください。これで当年使用の場合は発芽率がほとんど落ちません。なお、乾燥剤を使用しないで室温放置した場合は６日以上経過したものは使用しないでください。（５日以内なら発芽率は、ほとんど落ちません。）
- 翌年用に花粉を保存する場合は葯殻付花粉をパラフィン紙またはハトロン紙に包み貯蔵所へ預けてください。

重　要

花粉を大気温度３０℃以上の状態で保存しますと、死滅することがあります。
散布後の余った花粉は、必ずタンクから取出し、貯蔵所へ預けてください。

点　検・整　備

⚠ 注　意

・点検・整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でスパークプラグキャップを外して作業してください。
・発火テストは、シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。シリンダ内の混合気に引火し、火傷の恐れがあります。

整備の目安

重　要

年単位および月単位の整備に要する日数間隔については実際の使用と経験から判断してください。

● 製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。

整　備　箇　所	整　　備	掲載ページ	使用前	毎　月	毎　年
エアフィルタ	清掃 / 交換	１７	●		
燃料フィルタ	点検 / 交換	１７		●	
燃料パイプ	点検	１６		●	
スパークプラグ	点検 / 清掃と調整 / 交換	１８		●	
キャブレタ	点検	－			●
シリンダフィン	点検 / 清掃	１７	●		
マフラ	点検、増し締め / 清掃	１７	●		
ファンケース	点検 / 清掃	１８	●		
燃料系統	点検 / 修理	１６	●		
ネジ、ボルト、ナット類	点検、ネジ類の増し締め / 交換	－	●		

⚠ 警　告

・髪の毛がファンに巻き込まれないように注意してください。
・エンジンが回転しているときは、エンジンと背当ての間に絶対に手を入れないでください。風圧によって手が引き込まれ指にケガをすることがあります。

重　要

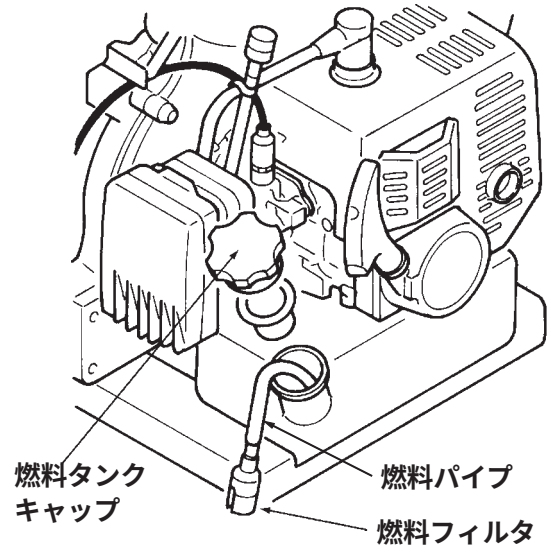
・作業が終了した後は、本機をよく清掃し常に最良の状態に点検・整備をしておくことが、次回の散布作業を順調に進めるのに最も大切なことです。
・使用後は必ずエアフィルタを清掃してください。
・燃料フィルタが汚れているとエンジンがスムーズに始動しなかったり、エンジン性能が低下したりします。
・燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
・スパークプラグは締付け過ぎないでください。
・フックの長さの調整で花粉タンクの締付けの調整が可能ですが、締過ぎないでください。
・ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。

点検要領

燃料パイプ、燃料グロメット、
燃料タンクガスケット

・ ご使用前に燃料を補給した後、燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
・ 燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の危険がありますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検、交換を依頼してください。
・ 燃料パイプ、グロメット、ガスケット類を取付け、取外しするときは、傷をつけないように、先端が鋭利な工具類は使用しないでください。
また、取付け後は各部から燃料の漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

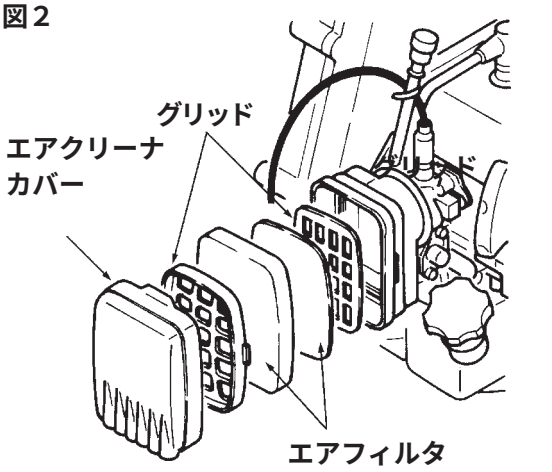
図1



燃料フィルタの交換

- 燃料タンクキャップを外します。
- 針金などを使用して、燃料タンクの給油口から燃料タンク内にある燃料パイプ（ゴムパイプ）を引上げます。
- 燃料パイプから古い燃料フィルタを取外し、新しい燃料フィルタを取付けます。
- 燃料タンクは常に清掃しておきます。
  燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。
- 燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。

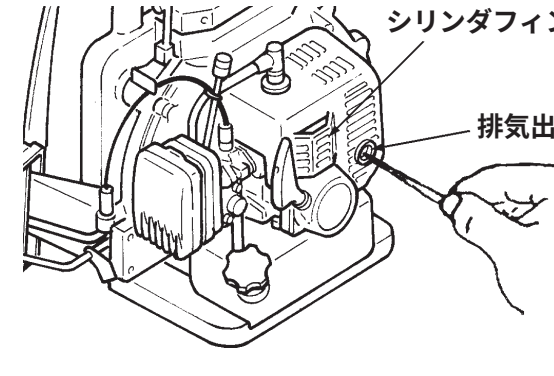
図2



エアフィルタの清掃

- チョークを閉じてから、エアクリーナカバー、グリッド、エアフィルタを取外します。
  エアフィルタの汚れ具合を点検し、汚れがひどい場合は中性洗剤を使って洗ってください。
  洗剤を使用した場合は、充分に水洗いをし、よく乾かしてください。
- エアフィルタを完全に乾かしたのち、取付けてください。

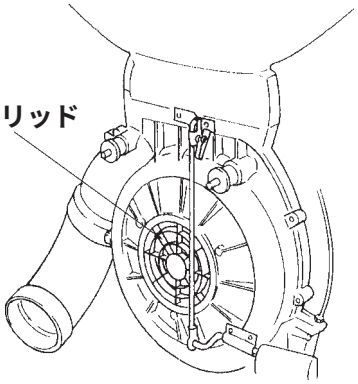
図3



マフラとシリンダフィン

- マフラのゆるみはガス漏れ、タール漏れを起こし、思わぬ事故につながりますので、増し締めしてください。
- 排気出口のカーボンを取除いてください。
  エンジンの性能を一定に保つため、この作業は定期的に実施してください。
- シリンダフィンは常に清掃してください。
  シリンダフィンの間に物が詰まると、エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。木の棒などを使って、芝、泥、葉、その他のゴミ屑をシリンダフィンの間から取除いてください。
  シリンダフィンは薄くて割れやすいので、清掃するときは金属の棒などで衝撃を与えないようにしてください。

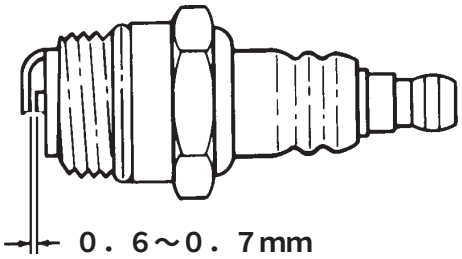
図１



ファンケースグリッド

- ファンケースグリッドは、毎日清掃する必要があります。
  グリッドが詰まると、エンジンがオーバーヒート（焼き付く）する恐れがあります。
- 髪の毛がファンに巻き込まれないように注意してください。
  エンジンが回転しているときは、エンジンと背当ての間に絶対に手を入れないでください。
  風圧によって手が引き込まれ指にケガをすることがあります。
- ファンケースグリッドの中の、ホコリ、葉、その他のゴミをすべて取出してください。
  異物がファンケースグリッドを通してファンケースに入り込まないように注意してください。
  ゴミ屑を取出す場合は、エンジンが完全に停止していることを確認してから、手を入れてください。
- 異物がファンケースの中に入るとファンやファンケース損傷の原因になります。

図２



スパークプラグ

- 付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
- 電極が減っているとき、すき間不良のとき（正しいすき間は０．６～０．７mm＝ハガキ３枚分の厚さ)、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新しいプラグと交換してください。（図２参照）
- スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
  参考：締付けトルクは１５～１７N・m
  （１５０～１７０kgf・㎝)です。

花粉タンクと散布装置

花粉タンクを本体から外し、調量弁およびタンク内外面をよく清掃してください。

花粉タンクキャップは常に完全な気密を保つことが必要ですから、パッキンの損傷には充分注意してください。

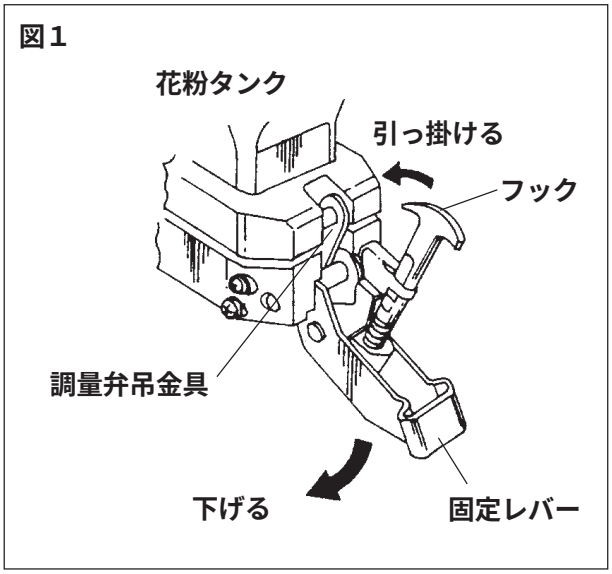
使用しないときは花粉タンクキャップパッキンの保護のため、花粉タンクキャップはゆるめておきます。

清掃後は必ず２～３分間低速でカラ運転してください。

花粉タンクの中に花粉が残っているときは次の要領で残った花粉を別の容器にうつしてください。

１．花粉タンクキャップを少しゆるめ、花粉タンク内の圧力を下げます。
２．調量レバーの位置を最下位にします。
３．固定レバー（２ヶ所）を上げ、フックをタンク部より外します。
４．調量弁吊金具を内側に押しながら調量弁と一緒に持ち上げます。（このとき調量弁が花粉タンクと一緒についてくるので花粉はこぼれません。）
５．調量弁吊金具を開いて調量弁を花粉タンクから外して残った花粉を別の容器にうつします。

図１



花粉タンクの組付け

１．調量レバーを最下位の位置にし、調量弁を本体の上にのせます。
２．調量弁吊金具を両側とも上げた状態にして花粉タンクを調量弁の上にのせます。
３．花粉タンク取付金具の案内枠に確実に入っていることを確認してから吊金具を下げてフックをタンク部に掛けてから左右２ヶ所の固定レバーを同時に下げて花粉タンクを締付け固定します。

フックの長さの調整で花粉タンクの締付けの調整が可能ですが、締過ぎないでください。

ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。

故障診断と対策

⚠ 警　告

交換・清掃・調整してもトラブルが解消しないときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

エンジンの調子が悪く故障診断するときは、まず次のことを確認してください。

- 燃料タンクに燃料が入っていること。
- スロットルレバーがアイドリング / 始動位置にあること。

故障内容			原因	対策
エンジンが始動困難、または始動しない				
クランク軸が回転する →	キャブレタの燃料 →	キャブレタに燃料がない	●燃料フィルタの目詰まり ●燃料系統の目詰まり ●キャブレタの不良	●清掃／交換 ●清掃 ●販売店へ
↓	シリンダの燃料 →	シリンダに燃料がない	●キャブレタの不良	●販売店へ
↓	→ ↓	プラグが燃料で湿っている	●空燃比(空気と燃料の混合比)が濃すぎる	●チョークを開く ●エアフィルタ清掃／交換 ●キャブレタ調整 ●販売店へ
↓	プラグコードの先端で発火する → ↓	プラグコードの先端で発火なし	●電気的故障	●販売店へ
↓	スパークプラグは発火する → ↓	スパークプラグが発火しない	●電極の隙間が正しくない ●カーボン(炭素)の堆積 ●燃料による汚れ ●スパークプラグの不良	●0.6～0.7 mmに調整 ●清掃／交換 ●清掃／交換 ●交換
クランク軸が回転しない	↓		●エンジン内部の故障	●販売店へ
エンジンは始動する→	持続しない、または加速不充分 ↓		●エアフィルタの汚れ ●燃料フィルタの汚れ ●燃料通路の詰まり ●スパークプラグの不良 ●キャブレタの不良 ●シリンダフィンの詰まり ●排気口／マフラの詰まり	●清掃／交換 ●清掃／交換 ●清掃 ●清掃、調整／交換 ●調整 ●清掃 ●清掃
↓	花粉が吐出されない、またはスムースに出ない →	シャッターメカニズムの誤動作	●シャッターの変形 ●シャッター連動リンクのゆるみまたはずれ ●シャッター調量アームの調整不良	●交換 ●調整／固定 ●調整
↓	→ ↓	花粉が原因	●花粉が湿気をおびているか、古くなっている ●異物が花粉の中に混入している ●花粉が固まっている	●新しい花粉または乾燥した花粉を使用する ●花粉を取除き、新しいものを入れる ●固まりを取除く
↓	→ ↓	組付不良	●花粉タンクキャップがゆるんでいる ●花粉タンクの取付けが不安定	●締める ●固定する

保　　管

⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重　要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

長期保管（６０日間以上）

機械を長期間(60日以上)にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

１. 花粉タンク内に残留している花粉を排出するか取出します。花粉タンク、シャッタ、吐出管の内側を清掃します。機械の外側に付いたオイル、ホコリ、ゴミなどもきれいに拭き取ってください。

２. 本書に定められた定期的な点検をしてください。機械の全ての部分を検査し、調節してください。スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は増し締めしてください。

　Ａ. 必要ならば掃除をし、修理をしてください。

　Ｂ. サビ止めに、金属部分には薄く油を塗ってください。

３. 燃料タンクを完全にカラにしてください。
キャブレタ内の燃料も排出してください。

４. スパークプラグを外し、その取付穴から大さじ１/２杯の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。

　Ａ. スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。

　Ｂ. スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをエンジンに行き渡らせてください。

　Ｃ. スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止まるようにしてください。

５. スパークプラグを取付けてください。
（スパークプラグキャップは接続しないでください。）

６. 機械を乾かし、子供の手の届かないホコリの少ない場所に保管してください。

仕　　様

項　　目	単位	DMP3101
質量	kg	７．０
容量 　燃料タンク 　花粉タンク	 L L	 ０．７ ３．５
外形寸法（本体） 　長さ×幅×高さ	 mm	 ３６０×４３０×５３５
エンジン 　形式 　排気量 　キャブレタ 　点火方式 　スパークプラグ 　始動方式	 mL 	 空冷２サイクル単シリンダ ３０．８ ＴＫ循環式 フライホイールマグネト：ＣＤＩ方式 ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ａ リコイルスタータ
燃料 　混合比		 [レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] ・共立純正２サイクル専用オイル 　ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ　　[５０：１] ・２サイクルエンジンオイル 　ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ，ＦＡ　[２５：１]
散布装置 　送風機最大風量 　基準回転速度 　粉剤調量方式 　最大吐出量	 m³/min r/min - g/min	 ８．５ ６，５００ 摺動板弁式 ５～２０
付属品 　標準散布用噴管 　ソケットレンチ 　１７×１９ 　防除マスク 　取扱説明書	 個数 個数 個数 個数	 一式 １ １ １

(質量：たわみ噴管、噴頭、噴管類、燃料除く　寸法：たわみ噴管、噴頭、噴管類除く)

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ　モ

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

898 541-0711 4
X750 105-100 4
0502n 0132 ES

© 2000 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。